受け継がれる哲学 磨き研ぎ続ける未来

未来の水インフラの礎に

特別社員座談会

極東技工コンサルタント（村岡基社長）は昭和49年3月の創業から半世紀もの間、上下水道を起点とした都市機能に欠かせないインフラストラクチャーについて、上下水道施設の設計を柱とした未来の礎となるストックマネジメントやアセットマネジメントの運用、さらにはトンネル、橋梁といった都市機能の安全と安心を起点う基盤整備のコンサルティングサービスを展開してきた。本紙は、創生国家へ飛躍するかと水インフラの持続に向けたコンサルタントに大きな貢献してきた社員の本音を探り返るとともに、水インフラの持続に向けたコンサルタントの役割、さらには今後の展望を、第2回は、磨き研ぎ続けていきたい同社のフィロソフィーについて、経営陣や現場最前線の社員に語ってもらった。

営業部総括課長　宮島 幸樹氏　設計部総括課長　髙原 達矢氏　設計部総括課長　金川 佑司氏　総務部長（人事担当）　松下 明史氏　総務部長（法務担当）　東中 美保氏

◇極東技工コンサルタントとの出会い

森田　私は、大阪出身ですが、福井県の専門学校に通っていました。本来、学校の先生になるはずだったのですが、ある先輩から「お前、面白そうな会社があるから来ないか」と誘われまして、4年生の1月ごろに面接試験を受けました。その中で一番熱心だったのが、この会社でした。

すぐに結果が出たから、「面白そうな会社だな」と思ったのが、この会社に入ったきっかけです。

佐野　私は、福井県出身です。学校の先生になるはずだったのは、ほぼ同じ。ただ、私の場合は、学内の求人票を見ていまして、「ここに行ってみたい」と思ったのが、この会社でした。

畠内　私は、奈良県出身です。学生時代は、ずっと陸上部でした。ですから、駅伝ばっかりでしたね。

浜田　私は、生まれは、福井県ですが、ずっと奈良で育ちました。学生時代は、陸上部でした。

宮島　当時の「勇み足」は、いろいろあります。急ぎの仕事は、ほとんどが、私が、中心になって、ほぼ、1人でやっていました。私が、配属されたときは、1人でしかも、自体無理な話ですよね。

髙原　当時は、まだ、ITなどもなかったし、ITの会社でもなかったし、ITの会社でもなかったし、ITの会社で